

2022年度事業報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

1. 概要

2022年2月4日開催の第39回理事会で決議された2022年度(2022年4月～2023年3月)事業計画に基づき、バイオサイエンス分野の研究者に対する研究助成、国際交流助成及び学会等開催助成などの諸事業を予定どおり実施した。

2. 年間の経緯 (2022年4月～2023年3月)

2022年

- 4月 15日 会計・業務監査
- 5月 12日 第40回理事会(決議の省略による方法)文書発信。決議日 5月17日
- 5月 19日 第17回評議員会招集
第41回理事会招集
- 6月 3日 第17回評議員会 ハイブリッド開催(於:如水会館)
第41回理事会 ハイブリッド開催(於:如水会館)
- 6月 28日 役員変更登記
- 6月 29日 2021年度事業報告及び決算書類提出(内閣府、電子申請)
- 6月 30日 役員変更届提出(内閣府、電子申請)
- 7月 1日 第34回国際交流助成(下期)募集開始(8月31日締切)
第34回研究助成募集開始(9月30日締切)
- 9月 下旬 第34回国際交流助成(下期)選考
- 11月 1日 第34回学会等開催助成募集開始(11月30日締切)
- 11月 18日 第13回研究助成報告交流会 ハイブリッド開催(於:大手町サンケイプラザ)
- 12月 28日 第34回研究助成選考委員会、第34回学会等開催助成選考会
ハイブリッド開催(於:如水会館)

2023年

- 1月 4日 第35回国際交流助成(上期)募集開始(2月28日締切)
- 2月 3日 第42回理事会 ハイブリッド開催(於:如水会館)
- 3月 3日 第34回研究助成贈呈式 ハイブリッド開催(於:如水会館)
- 3月 下旬 第35回国際交流助成(上期)選考
- 3月 29日 2023年度事業計画書及び収支予算書提出(内閣府、電子申請)

3. 事業

(1) 助成事業

2022 年度助成事業のまとめ (2021 年度対比)

事業名	応募件数		助成件数		採択率(%)		予算(万円)		実績(万円)	
	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021
研究助成	160	179	31	31	19.4	17.3	5,700	5,400	6,000	5,900
メディカルサイエンス	110	125	20	20	18.2	16.0	3,800	3,400	4,000	4,000
バイオテクノロジー	43	45	8	8	17.8	17.8	1,600	1,600	1,600	1,600
環境バイオ	7	9	3	3	42.9	33.3	300	400	※400	300
国際交流助成	27	5	17	5	63	100	200	400	415	17.9
上期	5	0	5	0	100	—	0	0	130	0
下期	22	5	12	5	55	100	200	400	※285	17.9
学会等開催助成	40	25	20	16	50	64	300	300	390	330

注 1) 2022 年度環境バイオ：※400 万円は増額 100 万円(成績優秀者 1 名分)を含む金額

注 2) 2022 年度(下期)国際交流助成：※285 万円は採択時の金額⇒他研究資金との重複助成調整等の結果、最終的に 251 万円に減額

1) 研究助成

3 つの募集区分に対して7月初めから 9 月末まで募集した結果、前年度より約 10%減の計 160 件の応募があった。選考委員会答申に基づく理事会審議を経て、全 31 件の研究助成(うち、奨励研究 3 件)を行なった。また、環境バイオ分野(奨励研究)では成績優秀者に対する助成金増額(100 万円)の運用を開始したが、初年度として採択 3 名中 1 名が増額対象となった。なお、全体の採択率は約 19.4%となった。

2) 国際交流助成

上期は、1 月上旬から 2 月末まで募集した結果、5 件の応募があり、5 件の助成を行なった。

下期は、7 月初めから 8 月末まで募集した結果、22 件の応募があった。久々の応募回復を受けて若手研究員をより手厚く支援する選考方針に基づき、12 件の助成を行なった。採択率は 55%とコロナ前の水準(40%弱)を大きく上回った。

その結果、助成額は上期 130 万円、下期 285 万円となり、年間予算 200 万円に対し実績 415 万

円となった。なお、上・下期ともに正副選考委員長による選考会答申に基づいて理事長決裁されている。

3) 学会等開催助成

11月の一ヶ月間募集したところ、前年度の25件に対して40件の応募があった。

正副選考委員長による選考会答申に基づく理事会審議を経て、予算300万円に対し、30万円7件、20万円5件、10万円8件の合計390万円20件の助成を行った。助成額は選考時の成績順に割り振った。

(2) 第13回研究助成報告交流会

2022年11月18日(火)に大手町サンケイプラザにおいて公開で開催した。第31回(2019年度)の助成者による口頭発表が行われ、財団役員・選考委員・外部関係者等40名が参加し活発な質疑応答が行われた。報告会の後は交流会を開催し、助成者や参加者間の情報交換等を行った。

(4) 第34回研究助成贈呈式

本年度の研究助成贈呈式を2023年3月3日に如水会館(ハイブリッド形式)にて開催した。選考委員長による選考経過報告の後、研究助成受領者一人ひとりに対し、理事長より助成金目録及び記念盾が贈呈された。その後、協和キリン株式会社・宮本昌志社長より来賓祝辞をいただいた。引き続き、2名の選考委員による下記の特別講演が行なわれた。

- 1) 名古屋大学 環境医学研究所 教授 竹本 さやか
「神経回路形成におけるカルシウムシグナリングの役割と脳病態」
- 2) 東北大学大学院生命科学研究科 教授 永田 裕二
「土壌細菌の進化と種間相互作用」

参加者は、助成受領者は31名中29名(全員現地参加)、全体ではオンライン参加者含めて59名であった。

式典終了後、会場を移して食事会の後、ポスターセッション形式で助成受領者による研究計画発表会を行った。

(5) 年報の発行

2022年9月30日付けで2021年度年報(第23号)を350部作成し、関係者へ配布した。また財団ホームページから概略版を公開したほか、国会図書館にも納本した。

(6) パンフレット更新

今年度の財団紹介パンフレットを450部印刷し関係各所に配布した。また、ホームページでPDF版を公開した。

4. 理事会

定例理事会2回と臨時理事会1回を下記のとおり開催し、各理事会の議案は全て承認された。

(1) 第40回理事会(定例／決議の省略による方法)

理事会の決議があったものとみなされた事項の内容

提案者	理事 小池正道
決議日	2022年5月12日(木)
議事録作成者	理事 石田浩幸
同意書	理事9名全員、監事2名全員(異議ないことを証する書類)
審議事項	①2021年度(2021年4月～2022年3月)事業報告及び収支決算報告 ②評議員の選任 ③理事の選任 ④監事の選任 ⑤第17回評議員会の開催内容

(2) 第41回理事会(臨時)

日程	2022年6月3日(金)
場所	如水会館(※ハイブリッド形式)
出席者	理事9名、監事2名、事務局長
主な議題	報告事項 ① 第17回評議員会審議結果 ② 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況 ③ 第40回理事会報告事項(再掲) 審議事項

- ① 代表理事の選任
- ② 業務執行理事の選任

(3) 第 42 回理事会(定例)

日程	2023 年 2 月 3 日(金)
場所	如水会館(※ハイブリッド形式)
出席者	理事 9 名、監事 2 名、事務局長
主な議題	報告事項 ① 第 34 回国際交流助成(下期)助成者 ② 2021 年度年報(第 23 号)発行 ③ 第 13 回研究助成報告交流会 ④ 基本財産の運用 ⑤ 2022 年度決算見込み ⑥ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況 ⑦ 事務局トピックス ⑧ 今後のスケジュール、その他 審議事項 ① 第 34 回研究助成受領者の選出 ② 第 34 回学会等開催助成対象団体の選出 ③ 2023～2026 年度選考委員の選出 ④ 2023 年度事業計画案 ⑤ 2023 年度収支予算案

5. 評議員会

定例評議員会 1 回を下記のとおり開催し、全議案は承認された。

(1) 第 17 回評議員会(定例)

日程	2022 年 6 月 3 日(金)
場所	如水会館(※ハイブリッド形式)
出席者	評議員 8 名、監事 2 名、理事長、常務理事、事務局長
主な議題	報告事項 ① 2022 年度事業計画及び収支予算

- ② 第 39 回理事会報告事項
- ③ 第 39 回理事会決議事項
- ④ 第 40 回理事会報告事項
- ⑤ 第 40 回理事会決議事項

審議事項

- ① 2021 年度(2021 年 4 月～2022 年 3 月)事業報告及び収支決算報告
- ② 理事の選任
- ③ 監事の選任
- ④ 評議員の選任

6. 管理業務

(1) 寄附金受入

2022 年 4 月、協和キリン株式会社より 2022 年度運用財産(事業費及び管理費)として 7,200 万円の寄附を受領した。

(2) ホームページの改訂

各助成対象者について、歴代助成者名簿と共にホームページで公開した。

また財団年報ならびにパンフレットをホームページに掲載した。印刷版の年報には研究助成報告書の全文ならびに国際交流助成の学会参加報告書に掲載し、ホームページでは研究助成報告書は 400 字程度の概要のみの掲載とし、学会参加報告書は掲載していない。

財団理事・評議員 12 名から「若手研究者へのメッセージ」と題して、自身の経験や研究に対する思いなどを書いていただきホームページ上で公開している。

(3) 研究助成の広報

公募時に各種広報活動を行った。

1) 募集広告掲載

➤ 専門誌

「実験医学」 Vol. 40 No.13 (※8 月号) 2022 羊土社 ※電子版:6/20 閲覧開始

➤ ホームページなど

「JST ポータルサイト掲載」、「日本生物工業会:HP 掲載」、「環境バイオテクノロジー協会:HP 掲載および ※会員向け周知」(※事務局から展開して頂いた)

2) 募集のダイレクトメール発信

300 を超す大学や公的研究機関の窓口が発信(7/15-18)した他、環境バイオ分野の有力研究室を率いる先生方 100 名強にも直接メール案内を行った(7/18)。

3) 当財団助成者経由による PR 活動

バイオテクノロジー分野の応募回復(増加)に向けて、直近 3 回の当該分野助成者 26 名にメール発信し、同僚研究員や知人への直接的な PR(口コミ等)を依頼した(7/26)。

その他、7 月に都内で開催されたインターフェックス Week_2022 および 10 月に横浜で開催された BioJapan の会場において、数多くの大学等に対して広報を行った。

(4) 債券等情報の収集と検討

基本財産の運用管理のため、証券会社 5 社から債券市場に関する情報を得た。今期は、保有していた額面 1 億円の 10 年国債(年利 0.6%)が 3 月 20 日付で満期償還され、同額の債券購入を検討したが、米国銀行破綻やクレディ・スイス信用不安により国内外の金融情勢が不安定な状況下、当面は債券等の購入を控えて情勢を見極めることとした。なお、結果的に期限前償還となった債権はなく、債券の入れ替えはしなかった。

7. 人の異動

(1) 評議員 (敬称略)

川口元彦 評議員就任(2022 年 6 月 3 日付)

佐藤光男 評議員退任(2022 年 6 月 3 日付)

(2) 選考委員 (敬称略)

岩崎博史、王子田彰夫、竹本さやか、村田武士 選考委員就任(2022 年 4 月 1 日付)

岩田想、浦野泰照、小林武彦、渡部文子 選考委員退任(2022 年 3 月 31 日付)

(参考)

大塚基之、尾畑やよい、葛山智久、竹内理 選考委員就任(2023 年 4 月 1 日付)